

第56回熊本県芸術文化祭参加

くまもと 子ども芸術祭

2014 in 人吉

平成26年

8月9日(土)〈展示〉13時～17時

10日(日)〈ステージ〉13時開場、13時30分開演
〈展示・体験〉10時～16時

700年の歴史に学び今を生きる！そして未来へ。

〈場所〉 人吉市カルチャーパレス
人吉スポーツパレス



ご挨拶

子ども芸術祭2014in人吉
実行委員会 委員長

吉丸 良治

(熊本県文化協会会長)

人吉、球磨地方は、相良家700年の歴史の中で培われた豊かな伝統文化や、個性豊かな芸術文化が沢山花開いています。

県下で最も永い歴史と豊かな文化を育んできた人吉市で、第2回の「くまもと子ども芸術祭」を開催できることを大変うれしく思います。

少子高齢化社会の中で、今日の地域社会を豊かにしている伝統文化を次世代にどうつなげていくかということは、地域の豊かさと元気を考えたとき最も重要なことであります。

次世代の担い手は、間違いなく子ども達です。子ども達を主体にした子ども芸術祭は、子ども達、そして地域社会の芸術文化、伝統文化に対する高まりと、広まりにつながるものだ大きな期待をいたしております。

特に、第2回の人吉大会は、田中人吉市長さんの相良文化に対する御熱意と、人吉文化協会を中心とした皆さんの熱心な取り組みは、すばらしい感動の大会になることを信じています。

準備から頑張っていてくれる子どもさん達、指導いただいている先生方、そして応援いただいている保護者の皆さんに心から感謝いたします。



ご挨拶

熊本県知事

蒲島 郁夫

本日は、お忙しい中「くまもと子ども芸術祭2014in人吉」にお越しいただき、誠にありがとうございます。

くまもと子ども芸術祭は、「芸術を高め、文化を広げ、次世代につなぐ」というコンセプトのもと県内最大の芸術文化の祭典として実施される「熊本芸術文化祭」の一環として、特に次世代の担い手である子ども達を主体として開催するものです。

第2回となる今回は、清流球磨川をはじめとした豊かな自然と、相良700年の歴史と文化を誇る人吉の地で開催いたします。今回のステージは、豊かな自然や歴史をカンタータでとりながら郷土芸能等が上演されるなど、人吉ならではの工夫が凝らされています。また、絵画の展示などもあり、いずれも子ども達の創造性が遺憾なく発揮された内容となっております。

県としては、今後もこのような活力あふれる取り組みを通じて「百年の礎」を築くため、地域の歴史・文化を磨き上げ、県内の芸術文化の活性化を図り、次世代へ引き継いで参ります。

本日は、そうした子ども達の芸術文化の成果を十分御堪能ください。

最後に、子ども芸術祭の開催に当たり御尽力を賜りました関係者の皆様方に深く感謝いたしますとともに、本日御出演の皆様の御活躍を祈念いたします。



ご挨拶

人吉市長

田中 信孝

暦の上では秋ですが、まだまだ暑い日が続いています。その真夏日の暑さに負けないくらい熱い子ども達の芸術祭が人吉で開催されますことを、心からお祝い申し上げますとともに、県内各地からお越しいただいた方々を歓迎申し上げます。

今回第2回目となる「くまもと子ども芸術祭」は「700年の歴史に学び今を生きる！そして未来へ」というスローガンのもと、ステージ・展示・体験が企画されました。

700年というのは、相良氏が鎌倉時代から明治維新まで、人吉球磨を治めた期間です。このように長い間、一つの氏族が同じ場所を治めるというのは全国的にも数例しかありません。そのため、人吉球磨には独自の文化が発展してきました。今回このように地元の文化を発表する機会が与えられたことは、大変喜ばしいことであり、また、芸術祭に参加するという経験は、参加する子ども達にとっても誇らしく、忘れられない思い出になることでしょう。

最後に、この芸術祭をきっかけに、地域の伝統文化に興味を持ってくれる子どもが一人でも増え、伝統文化の継承発展へとつながることを祈念するとともに、芸術祭開催にあたりご尽力いただいた関係者の方々に感謝申し上げます。



ご挨拶

子ども芸術祭2014in人吉
地域実施委員会 委員長

山本 矩子

(人吉文化協会会長)

球磨川の豊かな水、織月城の濃い緑、自然豊かで歴史あふれる街・人吉市にようこそ!!

次世代の担い手となる子どもたちのお越しを、心から歓迎いたします。

子ども達のキラキラ輝く瞳、はじける笑顔は私たち大人に希望と明るい未来を与えてくれる宝物です。

今回、子ども芸術祭を開催するにあたっては、多くの指導者、多くの時間、多くの知恵、多くの協力が必要でした。8月に近づくにつれ、だんだん芸術祭の全容が見えてきて、開催日が近づくのが楽しみになりました。子ども芸術祭が、参加者の心に残り、記憶に刻まれることを確信いたしました。

今、文化を次世代につなぐことに危うさを感じています。また、芸術文化を取り巻く環境は決して良くありませんが、全国に誇りうる「芸術文化県・熊本」を目指して、学校「知育」、地域「地育」、行政が三者一体となり今を生きて、未来へつなぐことを今やらなければ失うものが多いと誰もが思い至っておられるのではと察します。そのような中で開催されるこの子ども芸術祭は、伝統・芸術文化の継承発展につながることを信じております。

最後に、ご参加くださった団体、県・市の実行委員の皆様、本日ご来場いただいた皆様に感謝申し上げ、厚くお礼申し上げます。

展示

内 容	時 間	場 所
いけばな展(池坊・小原流)	9日 13:00~17:00 10日 10:00~16:00	展示場(コミュニティ棟1F)
伝統建築(球磨工業高等学校)	10日 13:00~17:00	ホワイエ(ホール棟)
作品コンクール応募作品 (書道、絵画、短歌、工芸、写真)	9日 13:00~17:00 10日 10:00~16:00	人吉スポーツパレス 大アリーナ

※ホール棟ホワイエには、9日夕方に開催した交流会で人吉高等学校書道部が作成した作品も展示中です。

体験

内 容	時 間	場 所
いけばな(池坊)	10日 10:00~12:00	展示場(コミュニティ棟1F)
いけばな(小原流)	10日 10:00~12:00	展示場(コミュニティ棟1F)
お茶のおもてなし(表千家)	10日 10:00~14:00	教養室(コミュニティ棟1F)
お茶のおもてなし(裏千家)	10日 10:00~14:00	第2会議室(コミュニティ棟2F)
しゅんなめじょ(人吉文化協会)	10日 10:00~16:00	コミュニティ棟 入口
ウンスンカルタと昔遊び (鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会)	10日 10:00~16:00	談話室(コミュニティ棟1F)
きじ馬と花手箱の絵付け (宮原工芸)	10日 10:00~16:00	第5会議室(コミュニティ棟2F)

ミニコラム

青井阿蘇神社について

「青井さん」こと青井阿蘇神社は、大同元(806)年に創建されました。阿蘇市の阿蘇神社の御祭神12神のうち3神が分霊され祀られています。

鎌倉時代初期に相良氏が人吉球磨の地を治めるようになってからは、氏神として崇敬を受け、地域色を強めながら独自に発展していきました。

慶長15(1610)年から、藩主相良長毎の命により現在の社殿群(本殿・廊・幣殿・拝殿・楼門)が造られました。各社殿は、人吉球磨地方の独自性の強いデザインであると共に、桃山期の華麗な装飾性も取り入れられています。

また、廊の龍にみられる秀麗な彫刻や特異な拝殿方式は、広く南九州地方にその影響が認められています。

平成20年に国宝指定された青井阿蘇神社は、熊本県内に現存する文化財としては初の国宝となります。



ステージ・プログラム

司会(人吉高等学校放送技術研究部/人吉市)

挨拶

オープニング

カンタータ:『相良七百年を見守り続けてきた神と人吉の山々』(人吉東小学校/人吉市)
球磨神楽(球磨神楽保存会青井阿蘇神社子ども神楽教室/人吉市)

第一部

カンタータ:『源平・南北朝・戦国……人々の暮らしは戦乱と無縁ではなかった』
(人吉東小学校/人吉市)・詩吟(日本吟声流人吉支部/人吉市)

臼太鼓踊り(鬼木町子供臼太鼓踊り/人吉市)
高野の棒踊り(五木東小学校/五木村)
羅生門踊り(木上小学校/錦町)
菊池千本槍(菊池女子高等学校郷土芸能部/菊池市)

第二部

カンタータ:『人吉の人々の暮らしを伝える伝承歌』(人吉東小学校/人吉市)
球磨川舟唄(民謡竹峰流子供民謡・三味線部/宇城市ほか)舞踊(舞MY姫っ子の会/人吉市)
球磨の六調子(民謡竹峰流子供民謡・三味線部/宇城市ほか)
忠臣蔵(八千代座子供カブキ教室/山鹿市)

休憩

第三部

カンタータ:『相良氏の統治終わり、明治始まる』(人吉東小学校/人吉市)
ジャズ(つきでB. B. キッズ/熊本市)
吹奏楽(第一中学校吹奏楽部/人吉市)
旅愁(人吉東小学校/人吉市)
五木の子守唄(民謡竹峰流子供民謡・三味線部/宇城市ほか)舞踊(舞MY姫っ子の会/人吉市)

第四部

カンタータ:『人吉球磨・未来へ』(人吉東小学校/人吉市)
太鼓(球磨川太鼓保存会・清流こども太鼓/人吉市)

次期開催地へのフラッグ渡し、挨拶

フィナーレ

くまモン
六調子音頭(出演者全員)

参加団体紹介

球磨神楽「扇合」「大小」

「球磨神楽」は人吉球磨地方独特の神楽で、数百年にわたり神職に受け継がれてきました。元は33の演目がありましたが、現在では17の演目が伝承され、各神社の例大祭で奉納されています。昨年3月に、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

青井阿蘇神社子ども神楽教室は、この球磨神楽を次世代に継承するため、青井阿蘇神社にて開かれているものです。現在は小学生から高校生まで13人が、毎週木曜日に、練習を行っています。

本日の演目は、球磨神楽の基礎と言われ、基本の動きがすべて入っている「扇合(おうぎあわせ)」と、呪術的、中世的要素を秘めて、全国でここだけに伝わる「大小(だいしょう)」です。

球磨神楽は神様に奉納する舞なので、御神前に向かい奉納いたします。



球磨神楽保存会青井阿蘇神社子ども神楽教室(人吉市)

臼太鼓踊り

鬼木町臼太鼓踊りは、昭和36年に熊本県の重要無形民俗文化財に指定されている郷土芸能です。元々、人吉藩の藩主であった相良氏が、武道奨励の士気を高めるために始められたといわれ、源平合戦を表現した勇壮な踊りとなっています。

今回、子ども芸術祭に出演するにあたり、長い歴史の中で初めて大人が担当する頭、関、脇を5人の中・高校生に担当してもらうことになりました。5人とも小学生の時に鉦うちの経験があるとはいえ、頭の衣装は18キロ程もあります。初めての経験で大人も子どもも悪戦苦闘しましたが、歴史と文化のある踊りを、子どもだけで力強く踊ります。



鬼木町子供臼太鼓踊り(人吉市)

太鼓「朝霧」「三豊」

球磨川太鼓は、私たち清流こども太鼓が生まれた平成6年よりずっと以前の昭和57年10月、人吉市制施行40周年を記念して創設されました。地域の祭りやイベントに参加したり、姉妹都市である指宿市の湯豊太鼓との交流もあります。太鼓の演奏技術の向上や活動の活性化、集大成を披露する目的で、5年に一度「球磨川太鼓記念公演」を開催し、地域の方々に親しまれる演奏会になっています。

小学生を中心に結成された清流こども太鼓は、中学生や高校生になってもほとんどみんなが続けていて、大人の太鼓に加わって演奏するほどの技量を身に着けている者もあり、いずれは球磨川太鼓を担っていくものと期待されています。



球磨川太鼓保存会・清流こども太鼓(人吉市)

高野の棒踊り

高野の棒踊りは、五木村高野地区に伝わる棒踊りです。いつの頃から踊り始めたのか、また、どんな時に踊られたのか明確ではありません。現在では、5月の新緑祭り、11月の子守唄祭りで高野の棒踊り保存会の方々が披露しています。

踊りは6人1組としたもの、4人1組としたものがあり、踊り手が棒と鎌(太刀)を互いに打ち合わせて力強く舞い踊ります。

五木東小学校では、毎年運動会で高野の棒踊りを地域の方々に披露しています。そして今回は、保存会の唄い手の唄に合わせて、「庭入り」「じげんじ」「さんさ」の3曲を力強く舞い踊ります。



五木東小学校(五木村)

羅生門踊り

錦町木上に伝わる「羅生門踊り」は、相良氏が球磨・人吉に入国した約700年前には踊られていたとされ、京の都の羅生門に住み着いた鬼を退治した人達をたたえて踊ったとも、戦に行った兵士たちの活躍を願って村人が踊ったとも言われています。

一度、太平洋戦争の混乱によってその継承は途絶えましたが、地元有志により、平成元年に「羅生門踊り保存会」が結成され、戦前に踊っていた方の記憶をたどり、少しずつ復元するという大変な苦労の末、復活しました。

現在ではベテランから若い人達に伝統を受け継ぐことができおり、木上小学校では平成10年から踊られています。

このような歴史を持つ「羅生門踊り」を受け継ぎ、踊れることを誇りに思い、ふるさとの大切さ、尊さ、愛しさを感じています。



木上小学校(錦町)

民謡「球磨川舟唄」「球磨の六調子」「五木の子守唄」「六調子音頭」

民謡竹峰流子供民謡・三味線部は、最年少は3歳から、福島竹峰先生のもと、日本の伝統の音楽である民謡や三味線を楽しむ学んでいます。

毎年東京で行われる全国大会にノミネートされ、優秀な成績を収めています。

今日は、昨年9月にあった球磨の民謡全国選手権大会で優勝・入賞したこどもたちが、人吉地方の代表民謡をご披露致します。



民謡竹峰流子供民謡・三味線部(宇城市ほか)

舞踊「球磨川舟唄」「五木の子守唄」

踊りが大好きな人吉球磨の小学生までの子どもで誕生した「舞MY姫っ子」も、今年で7年目になりました。

踊りだけでなく、お茶の頂き方や点て方を勉強し、地元の伝統芸能である歌や踊りに親しみ、「おもてなしの心」を身につけてもらえるよう、お稽古に励んでいます。

最近は、様々なイベントに参加させていただいたり、施設訪問をしたりと、活躍の場を広げています。

今後もみんなで地元のことを勉強し、唄って踊って「おもてなし」が上手な人吉のアイドルを目指したいと思います。



舞MY姫っ子の会(人吉市)

詩吟「^{ふしきあん きざん}不識庵機山を撃つの図に題す」

「不識庵機山を撃つの図に題す」は、戦国時代におこった川中島の戦いを題材にしたもので、不識庵は越後の上杉謙信、機山は武田信玄の法号です。

今回、カンタータ「源平・南北朝・戦国……人々の暮らしは戦乱と無縁ではなかった」の中で詩吟を披露することになりました。

大変おとなしい二人が、吟詠に興味を持ち、球磨川の清流で声を出し、少しずつ人前で吟じられるようになりました。

これからも沢山の吟に出会い、吟友と交流を深め、楽しく続けていけたらいいなと思います。



日本吟声流人吉支部(人吉市)

合唱「カンタータ」「旅愁」

人吉東小学校の5、6年生170名は、「子ども芸術祭(舞台)」のカンタータと合唱に出場します。カンタータ「相良七百年…未来へ～人吉球磨～」は五部の場面から成り立っていて、ソリストとコーラスで演じます。その第三部の中で犬童球溪先生作詞の「旅愁」を合唱します。

5、6年生の子どもたちは、毎年東小学校の代表として犬童球溪顕彰音楽祭や鼓笛隊で人吉球磨の行事に参加していますが、今年は「子ども芸術祭」に参加する機会に恵まれ、さらに人吉球磨に誇りをもち、音楽を通して未来へつなぐ気持ちを表したいと思います。



人吉東小学校(人吉市)

吹奏楽

第一中学校吹奏楽部は、部員数43名で活動しています。

普段は地元の祭りやイベントにも参加し、地域の方に音楽を楽しんでもらっています。

また、定期演奏会である「音楽のタベ」は今年41回目を迎えるなど、長い歴史と伝統のある部活動です。

毎年7月にある熊本県吹奏楽コンクールでは、8年連続で金賞を受賞しています。

近年は、県の代表として九州大会に2回ほど出場しています。



第一中学校吹奏楽部(人吉市)

ジャズ

つきでB. B. キッズは、小学生だけによるジャズのビッグバンドです。学校の部活動として活動しています。

古いスウィングジャズを中心に演奏していますが、演歌・ポップス・ラテン・・・etc、気に入った曲なら何でも演奏します。

今日は、日本の民謡とラテンのリズムのクロスオーバーに取り組んでみました。

6年生のソロプレイに皆さんのご声援をよろしくお願いします。



つきでB. B. キッズ(熊本市)

菊池千本槍

菊池市には南北朝時代、めざましい活躍をした菊池一族の足跡が随所に残っています。「菊池千本槍」は1334年、菊池武重が「箱根竹ノ下の戦い」のおり、竹の先に小刀をくくりつけた竹槍を考案し、少数の菊池軍が〔槍ぶすま〕の戦術で進撃し、足利尊氏軍の九州進撃を遅らせたことに由来します。

菊池女子高等学校郷土芸能部は、平成3年に日本舞踊部として発足し、今年で24年目を迎えます。先輩たちから受け継いだ歴史を踊りの中で感じ、その伝統を大事に、また新しい挑戦とともに日々精進しております。



菊池女子高等学校郷土芸能部(菊池市)

忠臣蔵

「八千代座子供カブキ教室」を運営する「山鹿市民歌舞伎の会」は国の重要文化財「八千代座」で、世界遺産の「歌舞伎」の魅力に触れてもらおうという思いで始まり、多くの皆さんに歌舞伎を体験していただいています。

「八千代座子供カブキ教室」は、二代目中村又蔵先生にお忙しい時間を割いてはるばる山鹿まで指導に来ていただいております。

今回ご披露する演目は、今から300年前、江戸城中「松の廊下」において起こった事件を基にした「忠臣蔵」です。吉良役の憎々しい台詞回しと、浅野役の忍耐の演技にご注目ください。



八千代座子供カブキ教室(山鹿市)

司会

本校の放送技術研究部は、部員18名で活動しています。九州大会や全国大会など、上位大会への出場を目指し、日々、アナウンス・朗読の原稿作成や練習、テレビ・ラジオ作品の制作などを行っています。

本年度は、7月21日～24日に東京で行われるNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会に、創作テレビドラマ部門とラジオドキュメント部門の二部門で、出場権を得ることができました。

今後も部員一同、これまで以上の成果が出せるよう頑張っていきたいと思っています。



人吉高等学校放送技術研究部(人吉市)

いけばな

華道家元池坊は、生活文化である「いけばな」に親しみ、習得、研さんに努め発展してまいりました。人吉支部は96年の歴史があり、また、伝統文化子ども教室も今年で12年目を迎えております。

今回の出瓶者は、人吉高等学校・南稜高等学校・伝統文化こども教室及びそのOB生・相良いけばな教室・カルヴァーリョラッソ人吉で学ぶ子どもたちです。個人の作品展示のほか、参加者全員で「祈りの花、東日本の復興と世界の平和」をつり花で創作展示します。子どもたちの願いが少しでも伝われば幸いです。

今後も、伝統ある「いけばな」文化の広がりを次世代へ継承・発展するために、つくして参ります。



華道家元池坊人吉支部(人吉市)

いけばな

いけばな小原流は、若い5世家元を中心に色んな活動を楽しんでいます。特に、子ども生け花教室は全国的に展開されており、希望あふれる次世代へと受け継がれていき、また、青年部の活動も全国121支部にて、色々なイベントに合わせて、野外展を行うなど、楽しく参加しています。

今回の子ども芸術祭は、日本の伝統文化のいけばなを体験することにより、「花にふれ、感じ、心の豊かさ」を味わっていただく良き機会かと思います。



小原流人吉支部(人吉市)

伝統建築「おみこし」

「おみこし」はお祭りの時に神様を乗せてお運びするものです。ですから神社の建物と共通した造りになっています。

一般には、漆(うるし)を塗って、きらびやかな鍔(かざり)金物で装飾することが多いのですが、球磨工業高等学校は木材加工の技術を勉強する学校なので、そういった装飾はせずに、ひのきの木材を組み合わせて造っています。

このおみこしは平成23年度に4人の学生が半年ほどかけて2基造りました。熊本市の加藤神社にも同じものを奉納しています。お祭りの時にご覧ください。



球磨工業高等学校伝統建築専攻科(人吉市)

書道

人吉高等学校書道部は、文化系というより、体育会系部活動というイメージです。個性豊かなメンバーとともに、切磋琢磨しながら日々練習に励んでいます。

毎年9月に行われる「熊本県高等学校揮毫大会」では2年連続で団体賞3位に輝きました。個人でも九州大会に出場しております。

また、全国大会に出場した実績もあり、本校の目標である「文武両道」を目指して頑張っています。

今回、1・2年生の作品を出品させていただきました。まだまだ未熟な作品ですが、それぞれ思いを込めて一筆入魂しました。これからも「書心」を忘れず頑張ります。



人吉高等学校書道部(人吉市)

お茶のおもてなし

「私達はひまわりっ子です」

ひまわり保育園の学童保育に通っている元気いっぱいの学童が、月2回のお稽古を楽しんでいます。

- ・相手の心をくみとる気持ち
- ・思いやりの心
- ・ゆずりあいの心
- ・人をうやまう心
- ・感謝の心
- ・物を大切に扱う心
- ・約束、時間を守る心

これら表千家茶道の精神を根底にお稽古をしています。

将来、日本文化の茶道に大きく関心を寄せ、伝統文化をつないでくれる輝く星たちです。



表千家人吉の会(人吉市)

お茶のおもてなし

日本の伝統文化である茶道、その中で、裏千家流を南稜高等学校・多良木高等学校・球磨商業高等学校では熱心にお稽古しています。

毎年7月に熊本で行われる学校茶道合同茶会に参加し、貴重な体験をしています。

今回の芸術祭では、2階の会議室にて“立礼席”で、3校の部員が皆様方においしいお茶を差し上げたいと張り切っております。

実際にお茶を点てる体験コーナーもありますので、沢山の方のお越しをお待ちしております。



茶道裏千家清友会(人吉市)

ウンスンカルタと昔遊び

鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会は、平成13年より鍛冶屋町通りの景観を残す保存活動に取り組んでいます。

ウンスンカルタは熊本県重要無形民俗文化財に指定され、来年度使用教科書にも掲載されることになりましたが、昭和の終わりごろには消滅しかけていました。そんな中、平成15年に開催された第16回熊本県民文化祭で復興に取り組み大成功、平成16年には熊本県民文化賞をいただきました。平成16年から始まった全国大会も今年で11回目を迎えます。芸術祭では初めて子どもだけの大会を行うほか、講習会も行います。

昔遊びは、けん玉・お手玉・おはじきなどを行います。

しゅんなめじょ

しゅんなめじょは、旧暦1月15日の「小正月」に行われてきた、球磨・人吉地方特有の農耕儀礼です。

前夜である14日の夜に、家族そろってカジやネムの小枝と和紙で人形を作り、それに粟や稗の作り物、花餅やネコヤナギなどを添えて種もみを入れた俵やかますに立てました。

これを床の間や米蔵の中に飾って豊作を“予祝”(1年間の農作業や秋の豊作を模擬実演すること)しました。人形が多いほど田植えの手伝いが大勢来てくれるとされました。

子どもたちには、弾き猿や猿のやじろべえなどの遊び道具を作っていました。

きじ馬・花手箱

きじ馬・花手箱の歴史は、古く平家の一門が壇ノ浦の戦いに敗れ、住処を山間のこの地に求め、過ぎし都の栄華で培われた芸道への憧れが、きじ馬・花手箱に生かされ、優れた芸術品となり今に伝えられたと言われています。

男の子には端午の節句にきじ馬、女の子にはひな祭りに花手箱が贈答品として喜ばれています。

平成元年頃よりクラフトパーク石野公園にて絵付けを指導し、多くの方に体験していただいています。現在は工房で体験ができるほか、学校等でも出張体験教室を行い、卒業記念品の制作などを行っています。

「喜ばれるモノを作ることが伝統を守ること」と日々精進しています。



鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会(人吉市)



人吉文化協会(人吉市)



宮原工芸(人吉市)

ミニコラム

郷土が生んだ音楽家「犬童球溪」

犬童球溪は、本名を信蔵といい、明治12年(1879年)3月20日に藍田村(現在の人吉市西間下町)で、農家の次男として生まれました。

熊本師範学校と東京音楽学校(現在の東京芸術大学)で音楽指導の勉強をし、兵庫県立柏原中学校、新潟高等女学校、人吉高等女学校に勤務しました。犬童球溪の代表作である「旅愁」「故郷の廃家」は、新潟高等女学校勤務時に作詞されています。

犬童球溪は64歳で亡くなりましたが、亡くなって4年が過ぎた昭和22年11月、球溪の功績をしのび広く世間に知らせるために、第1回犬童球溪顕彰音楽祭が人吉高等女学校で開催されました。今年で68回目を迎える音楽祭は、小学生・中学生・高校生・一般と多くの人が参加し開催されています。これからも、犬童球溪の名前と功績は語り継がれていくことでしょう。



「くまもと子ども芸術祭2014in人吉」

作品コンクール審査結果一覧

●:熊本県文化協会賞 ●:人吉文化協会賞 ●:人吉市賞 ●:人吉市議会賞 ●:人吉市教育委員会賞

記念賞



第一中学校 1年 **森山 さと**

人吉観光ポスター



人吉西小学校 3年 **久本 樹奈**

なかよしチョウとてんとう虫



人吉東小学校 2年 **白石 こころ**

ハーモニカをふくよ

短歌の部

● 人吉西小学校 4年 **皆越 統斗**
きれいだなホタルの光 点々と
夜空にとびかう星の子どもたち

● 第三中学校 3年 **上村 力斗**
光りだす十月の朝 田園が
気付くとそこに金のじゅうたん

● 人吉東小学校 3年 **樽口 華綾**
くま川がながれる中で弓矢とび
高校生のしんけん顔

● 人吉高等学校 1年 **松舟 彩花**
大みそか倒れた祖母の命の灯
消えることなく朝日が昇る



五木中学校 3年 **竹村 匠平**

いつき焼



第一中学校 3年 **福原 海斗**

人吉観光ポスター

絵画の部



人吉東小学校 4年 **中島 さくら**

人吉城趾



球磨工業高等学校 3年 **松谷 静也**

Machine for work

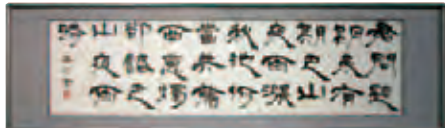
写真の部



深田小学校 6年 **橋口 侑弘**

梅雨の水田とあじさい

書道の部



人吉高等学校 2年 **光永 華乃**

李商隠詩「夜雨寄北」



人吉東小学校 1年 **山本 英徳**



人吉東小学校 3年 **岩下 すみれ**



人吉東小学校 4年 **山本 吉徳**



第三中学校 3年 **杉本 莉望**



人吉東小学校 6年 **宮川 智帆**



多良木中学校 1年 **田嶋 瑠衣**



人吉高等学校 2年 **深水 萌々伽**



人吉高等学校 2年 **西嶋 瞳**

相良家存続の危機を 乗り越えての700年

人吉市は市街地中央を日本三大急流の球磨川が流れる、自然豊かな美しい町です。また、「相良700年」と言われますが、700年とは、相良氏の人吉に^{かまくら}来た鎌倉時代から相良氏の支配が終わった明治維新までを指します。ではなぜ、700年間、相良氏は存続できたのでしょうか？相良氏の歴史を見ていきたいと思います。

^{かまくら}鎌倉時代【相良氏、人吉に入国する】

相良氏は、遠江国相良庄（現在の静岡県牧ノ原市相良町）に住んでいました。建久9（1198）年、相良長頼は、鎌倉幕府の源頼朝の命を受け、人吉庄にやって来て、元久2（1205）年人吉庄の地頭職についています。長頼は人吉・球磨郡一帯を治めるようになり、人吉を中心とした下球磨を長男頼親（第2代）、多良木を中心とした上球磨を二男頼氏に分け与えました。そして、下球磨の頼親を「下相良氏」、上球磨の頼氏を「上相良氏」と呼ぶようになりました。

^{むろまち}室町時代【人吉球磨の統一】

鎌倉幕府が滅亡し、延元3（1338）年、足利尊氏が京都室町に幕府を開き、室町時代が始まりました。その後、南北朝の争乱になり、人吉球磨でも下相良氏が北朝（武家側）、上相良氏が南朝（天皇側）に分かれて戦うようになりました。争乱が終わっても両相良氏の争いは続きましたが、文安5（1448）年、長統（第11代）が多良木の上相良氏を滅ぼし人吉球磨を統一しました。

^{せんごく}戦国時代【領地の拡大・島津氏との衝突～相良氏の危機①】

戦国の世になり、相良氏も領地拡大のため人吉球磨周辺の地域と戦いを始めました。長毎（第13代）の時代には、球磨・八代・葦北など肥後（熊本）の南半分を持つ戦国大名になりました。

天正9（1581）年、義陽（第18代）は「水俣合戦」にて島津氏に敗れ、葦北・八代を失いました。島津氏の次の目標は阿蘇氏でした。義陽は、阿蘇氏の防衛線を守る甲斐宗運を討つよう島津氏に命令されましたが、甲斐宗運と「お互い戦わない」と約束していました。しかし、命令に従わないと相良一族が滅ぼされると思った義陽は、甲斐宗運と響ヶ原（宇城市豊野）で戦い、戦死しました。義陽は、島津氏の命令を受け入れることで相良氏を守り、戦死することで甲斐宗運にお詫びをし、相良氏の危機①は回避されました。

^{あづち ももやま}安土桃山時代【^{とよとみひでよし}豊臣秀吉の九州征伐～^{せいばつ}相良氏の危機②】

織田信長に代わり、豊臣秀吉が全国を統一しました。相良氏は忠房（第19代）が家督を継ぎましたが、天正14（1586）年には肥後国はすべて島津氏の領地となっていました。

豊臣秀吉の九州征伐では、最初、相良氏は島津方についていましたが、重臣の情勢判断により豊臣方につき難を逃れ、相良氏の危機②は回避されました。この時の当主が、長毎（第20代）です。長毎は、新たな人吉城を作り始めました。つまり、自然の地形を生かした中世の山城から、石垣造りの近世の城としました。

^{え ど}江戸時代【^{とくがわいえやす}徳川家康による幕藩体制の確立～相良家の危機③】

慶長5（1600）年、長毎は関ヶ原の戦いに参加します。当初、長毎は、石田三成軍に加わり、徳川を相手に戦っていましたが、家老である相良清兵衛の策により、徳川方に寝返り、戦功をあげました。長毎は、家康から褒美として旧領を与えられ、人吉藩が成立し、相良氏の危機③は回避しました。

慶長15（1610）年から、長毎と清兵衛により平成20（2008）年に国宝に指定された青井阿蘇神社の社殿が造られました。また、人吉城下の整備を行い、現在の人吉市の町並みの骨格を作りました。

その後、清兵衛があまりにも身勝手になり、相良家を左右するようになったため、頼寛（第21代）は、清兵衛を幕府に訴えました。清兵衛は、津軽藩（青森）お預けの処分となり、そこで生涯を終えました。

頼喬（第22代）の時代になると、林正盛により球磨川開削が行われ、舟による八代までの通行が可能となり、人吉の交通・産業に一大変革を与えました。また、百太郎溝・幸野溝が作られ、農業振興に役立ちました。

その後は平和な時代が続き、長寛（第31代）の頃、人吉藩では、文武両道を目的に、学問のための「習教館」、武道のための「郷義館」という2つの藩校を作り、武士の教育に力を入れました。

文久2（1862）年、最後の藩主である頼基（第35代）の時代、人吉の大半を焼失した「寅助火事」が起き、人吉藩は大打撃を受けましたが、薩摩藩や大坂商人より借金を行い、藩を立て直すことができました。そして、慶応3（1867）年、江戸幕府が朝廷に政権を返還する大政奉還がおこり、1868年に元号が明治となりました。明治4（1871）年、廃藩置県が行われ、人吉藩は人吉県となり、相良氏の統治は終わりました。



▲相良氏の居城《史跡人吉城跡》



▲歴史的建造物復元（角櫓・長堀・多門櫓）

見取り図

カルチャーパレス ホール棟

スポーツパレス

大ホール ステージ
ホワイエにて 伝統建築、書道部の展示

大アリーナ
作品コンクール 展示

出入口

しゅんなめじょ

1
階

いけばな展
展示場

出入口

ロビー

トイレ

ウンスンカルタ
談話室

管理室

館長室

茶会(表千家)
教養室

2
階

応接室

第6会議室

トイレ

給湯

絵付け
第5会議室

図書館
事務室

図書館

学習室

第1会議室

茶会(裏千家)
第2会議室

第3会議室

3
階

プラネタリウム

・11:00～・14:00～
高校生以下無料投影
(大人は210円)

トイレ

料理教室

美術工芸室

視聴覚室

音楽室

カルチャーパレス コミュニティ棟

主 催 「くまもと子ども芸術祭2014 in 人吉」実行委員会

構成:熊本県、人吉市、熊本県教育委員会、人吉市教育委員会、熊本県文化協会、人吉文化協会

後 援 錦町教育委員会、あさぎり町教育委員会、多良木町教育委員会、湯前町教育委員会、水上村教育委員会、相良村教育委員会、五木村教育委員会、山江村教育委員会、球磨村教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会、熊本県文化協会協力会、熊本県高等学校文化連盟、熊本県市長会、熊本県町村会、熊本日日新聞社、人吉新聞、NHK熊本放送局、株式会社熊本放送、株式会社テレビ熊本、株式会社熊本県民テレビ、熊本朝日放送株式会社、株式会社エフエム熊本、株式会社シティエフエム

「くまもと子ども芸術祭2014 in 人吉」地域実施委員会事務局

人吉市教育委員会市民文化課(人吉市カルチャーパレス)内

〒868-0015 人吉市下城本町1578-1 Tel:0966-24-3311